

JAバンク中期戦略(平成28～30年度)について

このたび、JAバンク(JA・信連・農林中金)では、次期3か年(平成28～30年度)の総合的戦略として、「JAバンク中期戦略(平成28～30年度)」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

【JAバンクの目指す姿】

食と農、地域社会へ貢献することにより、地域で一層必要とされる存在へ

～ 私たちは、良質で高度な金融サービスの提供を通じて、「農業所得増大」と「地域活性化」に貢献します。～

1 日本農業のメインバンクとしての役割発揮

**JAバンクは、農業金融をはじめとした様々な施策を通じて、担い手の皆様を全力でサポートし、
持続可能な農業の実現に貢献します。**

- 農業所得増大と地域活性化に貢献するため、平成26年度に構築した事業規模2兆円、事業費1,000億円規模の「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」を活用し、担い手の皆様の生産拡大・生産コスト削減に直接寄与する施策や、地域活性化に資する施策を展開していきます。(別添資料1参照)
- 地域農業を支える多様な担い手の皆様に対して、JA・信連・農林中金が連携して積極的に農業金融に取り組むとともに、商談会やビジネスマッチングによる販路拡大支援、ファンドを活用した六次産業化の取り組み、農業経営に関するコンサルティング機能の提供等の幅広い分野にも積極的に取り組んでいきます。また、JAが中心となって、農地集約化・法人化、さらに事業承継等に係るサポート等に取り組んでいきます。

2 農業と地域をつなぐ取組み

JAバンクは、農業と地域の発展に向けた活動をさらに強化します。

- 農業振興に向けて「農とあゆむプロジェクト」を展開し、国産農産物消費拡大につながる金融商品（「農業応援金融商品」）の取扱いを拡大します。また、地域の皆様にご好評をいただいている農産物直売所の利便性と魅力の向上に向け、金融面からサポートします。（別添資料2参照）
- 農業体験や料理教室、食農教育等、地域の皆様に農業への関心・理解を深めていただける取組みを継続・強化します。（JAバンクアグリエコサポート基金を活用した食農教育応援事業等）

3 地域の生活を支える金融サービスの提供

JAバンクは、お客様のライフイベント・ニーズに沿ったご提案により、豊かなくらしをサポートします。

- お客様の視点に立ち、ライフイベントにあわせた貯金、ローン、給与・年金受取、クレジットカード等の商品・サービスをご提案します。また、高齢のお客様のニーズを踏まえ、相続のご相談に応える態勢構築と、適切な商品提供に取り組みます。
- お客様に満足いただける金融サービスのご提供を通じて、お客様からの信頼の証である貯金残高について、平成30年度までに100兆円を目指します。（平成27年9月末時点 95兆円）

4 お客様からのさらなる信頼獲得

JAバンクは、金融サービスの提供を通じて地域の基盤を支え、将来にわたり農業と地域に貢献し続けるために、お客様からのさらなる信頼獲得に取り組みます。

①お客様サービスの向上

- システム導入・事務効率化を通じた窓口取引の迅速化・堅確化により、お客様サービスの向上に努めます。
- 過疎地域への金融サービス提供および災害時対応の強化を目的として、移動店舗車を配備します。

②利用者保護等の取組徹底

- 利用者保護等管理態勢およびコンプライアンス態勢の強化に継続的に取り組み、さらにお客様から信頼されるJAバンクを目指します。

③人材育成の強化

- 職員の金融知識・専門的スキルを向上させ、お客様からの信頼・期待に応えます。

【JAバンクの目指す姿】

食と農、地域社会へ貢献することにより、地域で一層必要とされる存在へ

～ 私たちは、良質で高度な金融サービスの提供を通じて、「農業所得増大」と「地域活性化」に貢献します。 ～

食と農、地域社会への貢献

農業

1 日本農業のメインバンクとしての役割発揮

- ・ 事業規模2兆円、事業費1000億円の「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」を活用し、農業生産拡大等に直接寄与する支援策を展開します。
- ・ 従来以上に農業金融に積極的に取り組むとともに、農地集約化・法人化、農業承継をサポートします。

2 農業と地域をつなぐ取組み

- ・ 「農とあゆむプロジェクト」を展開し、農産物消費拡大につながる金融商品の取扱いを拡大します。
- ・ 地域の皆様に農業への関心・理解を深めていただくため、食農教育応援事業を継続・強化します。

地域

3 地域の生活を支える金融サービスの提供

- ・ お客様のライフイベント・ニーズに沿った商品・サービスをご提案します。
- ・ お客様の満足度向上を通じて、JA貯金100兆円の達成を目指します。

JA態勢の強化

4 お客様からのさらなる信頼獲得

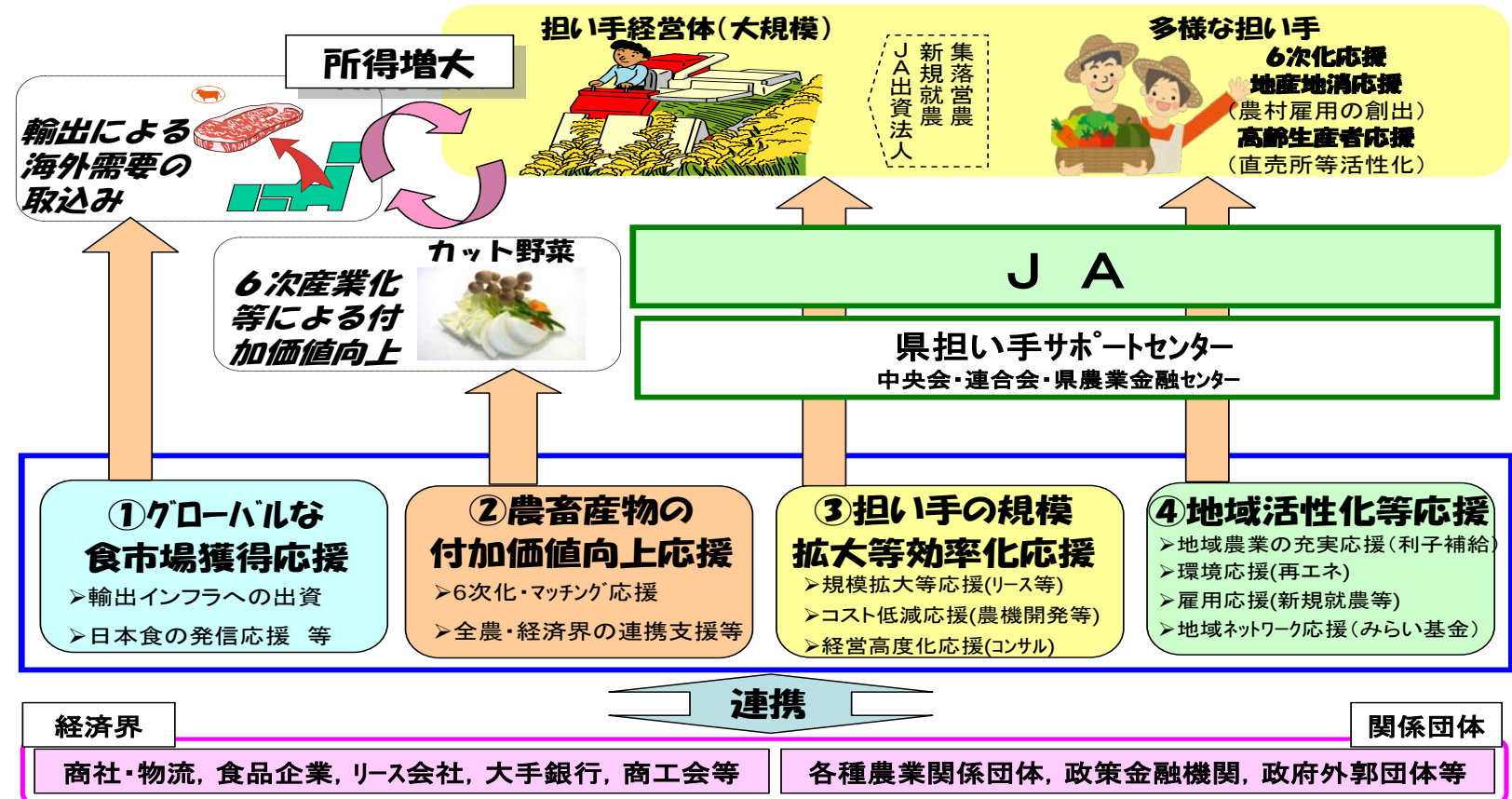
- ① お客様サービスの向上
 - ・ 窓口取引の迅速化・堅確化によりお客様サービスの向上に努めます。
 - ・ 過疎地への金融サービス提供および災害時対応の強化を目的に、移動店舗車を配備します。
- ② 利用者保護等の取組徹底
 - ・ 利用者保護等管理態勢およびコンプライアンス態勢の強化に取り組めます。
- ③ 人材育成の強化
 - ・ 職員の知識・スキルを向上させ、お客様からの信頼・期待に応えます。

「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」について

「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」創設

～ 事業規模2兆円・事業費1,000億円規模(2014～2018年度) ～

全国連が連携し、農業者の所得増大と持続可能な農業経営の実現のため、輸出の取組み、6次産業化、高付加価値化、担い手の初期投資を軽減するための支援、担い手への経営サポート、新規就農者を育成・確保する取組みへの支援など、総合的な支援を実施。



農業者の所得向上と地域活性化への取組み (農業所得増大・地域活性化応援プログラム)

① グローバルな食市場獲得応援

輸出促進の取組み

輸出セミナー開催や海外商談会の出展等、農林漁業者のニーズに合わせたメニューで農林水産物の海外輸出の取組みをトータルでサポート

輸出セミナーの開催

- ・海外輸出に関心のある農林漁業者を対象に、輸出セミナーを開催(2015年6月)。
- ・海外市場動向・輸出実務・商談ノウハウ等、輸出に取り組むうえで必要となる知識を効率的に習得できるようなカリキュラムを用意。



アジア食品輸出セミナー
(2015年6月)

輸出広報物の発行

- ・農林漁業者の海外輸出に向けた取組みを後押しするため、広報物「輸出の芽(いぶき)」を創刊。
- ・創刊号は香港市場をテーマに、輸出事業者・現地流通企業・ディストリビューター等へのインタビュー記事を中心に「現場の生の声」を発信。



「輸出の芽(香港編)」
(2015年8月)

海外商談会への出展

- ・農林漁業者の海外における販路拡大の機会を提供するため香港フードエキスポに出展(2015年8月)。
- ・JETROと連携した出展によりオールジャパンの取組みを演出、農林漁業者向けの出展ブース提供や、商談支援等で出展をサポート。



香港フードエキスポ
(2015年8月)

日本食の発信支援

- ・香港フードエキスポ(2015年8月)において、料理教室を展開する企業と連携し、国産食材を使用した子供向け体験教室を開催。
- ・ミラノ万博の日本館メインスポンサーにJAグループの一員として参画、様々なイベントを通じて和食文化・国産食材をPR。



香港フードエキスポにて
キッズ料理教室開催
(2015年8月)

外部機関との戦略的な提携

- ・オランダの協同組織金融機関であるラボバンクとの間で、食品・農業関連金融分野を中心とする戦略的提携に関する覚書を締結(2015年5月)。
- ・本提携を通じて、食品・農業関連産業を支えるリーディングバンクとしての役割・機能の一層の発揮を実現。



農業者の所得向上と地域活性化への取組み (農業所得増大・地域活性化応援プログラム)

② 農畜産物の付加価値向上応援

6次産業化の取組み

全国53の同種のファンドにおける出資案件71件のうち、「JA・6次化ファンド」が10件と最大の出資実績(2015.10.14現在の投資決定実績)

福島県の出資実行案件(2015年6月・第9号案件)

- 野菜苗の生産・販売を行う事業法人与JA全農が共同出資する事業体への出資案件。当金庫からは復興支援プログラムに基づく東北農林水産業応援ローンも対応。
- 閉鎖型育苗施設や育苗用大型ハウス等を建設し、ワクチン接種・接ぎ木技術を用いて連作障害・病害虫対策効果のある野菜苗を生産。
- 野菜生産農家の生産性・所得向上に貢献するとともに、県内に約100名の雇用創出を計画する等被災地の復興支援・地域活性化を図る。



商談会・ビジネスマッチング等による販売力強化

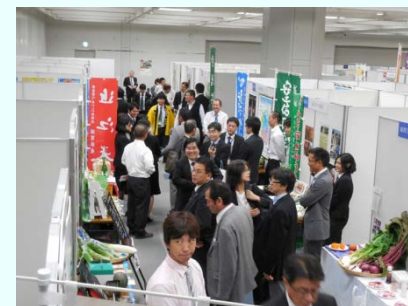
- ブロック商談会の開催や個別ビジネスマッチングの実施等により、農林水産業者の販路拡大やネットワーク構築を支援。
- 商談会による販路拡大を目指すにあたり、商談力強化セミナーの開催を通じて、流通・小売業界の理解促進やFCPシート作成方法、商談ノウハウ等の習得をサポート。



九州・沖縄地区商談会
(2015年6月)



近畿地区商談力強化セミナー
(2015年7月)



近畿地区商談会
(2015年11月)

農業者の所得向上と地域活性化への取組み (農業所得増大・地域活性化応援プログラム)

③ 担い手の規模拡大等効率化応援

担い手の規模拡大・効率化支援

「農機具等リース応援事業(アグリシードリース)」の募集

- 担い手の規模拡大・生産コスト低減を応援するため、農機具等にかかるリース料の一部を助成する「農機具等リース応援事業(アグリシードリース)」の第1回募集を実施(2015年7月)。



農機具(イメージ)



農機具(イメージ)



アグリシードリース募集

担い手経営体向け経営相談機能の強化(2015年9月)

- 担い手の経営課題解決を通じて農業経営者の更なる経営高度化を支援するため、経営相談(税務・労務・法人化等)の全国窓口を設置。
- 各県のJAグループが開催する経営セミナー・個別相談会に、専門的な知識を有する講師を派遣。



全国相談窓口の案内

担い手ニーズに応える資金対応

担い手への資本・ローン提供～ファンド出資・農業法人向けローン～

- 担い手と期待される農業法人向けに、ファンド出資(「アグリシードファンド」, 「担い手経営体応援ファンド」)やローン(「アグリシードローン」)で資金対応を実施。

商品名	件数	金額
アグリシードファンド	164	1,285百万円
担い手経営体応援ファンド	11	267百万円
アグリシードローン	74	1,088百万円

(2015年9月末までの実績)



融資先農場

農業経営者の育成支援

若手・次世代農業経営者育成の取組み

- 次世代農業経営者の育成策として、(一社)アグリフューチャージャパンの活動をサポート。日本農業経営大学校の運営、若手農業者向けセミナー運営等を応援。
- 第1期生19名が卒業し就農。第2期生15名、第3期生17名が在籍。



大学校第3期生入学式

農業者の所得向上と地域活性化への取組み (農業所得増大・地域活性化応援プログラム)

④ 地域活性化等応援

再生可能エネルギー促進

農山漁村再エネファンド（2014年4月組成）

- ・地域活性化に資する再生可能エネルギー事業の立ち上げを支援するため「農山漁村再エネファンド」を、JA共済連とともに組成。
- ・農山漁村・中山間地の関係者が取り組む再生可能エネルギー事業のうち、地域活性化に資するもの、かつ安定した経営が見込まれるものが対象。2015年9月度末まで2件の投資決定実績。

＜石川県の出資案件＞
「耕作放棄地の農業再開と太陽光発電を組み合わせた事業」（平成28年度事業開始）。5月に起工式実施。



石川県の案件（太陽光パネル）

新規就農者支援

新規就農者向け助成事業の拡充 (2015年9月)

- ・将来の国内農業の中核的な担い手となる独立新規就農者に対し、農業費用の助成事業を新設。
- ・新規就農者の研修受入先に対する助成額を拡充。
- ・いずれの取組みについても、今年度下期から事前申請の受付を開始。



新規就農応援の募集

農林水産業みらい基金

- ・（一社）農林水産業みらい基金による「農林水産業みらいプロジェクト」を応援。
- ・2014年度のプロジェクトでは、「創意工夫にあふれた取組みにチャレンジしている地域の農林水産業者」6件の助成を決定。



2014年度助成事業を紹介した新聞広告

- ・2015年度も同様に、農林水産業を軸とした地域活性化に資する取組み等への支援を目的に、助成事業の募集を実施。



2015年度募集広告

グループ全体での地域活性化に向けた取組み

- ・食農教育の活動に対する助成、食農教育教材本の製作・寄贈
- ・YouTube動画掲載による浜の活動紹介、「浜の応援隊」派遣による浜のイベント活性化
- ・地域産材を利用した木製品の寄贈 他



累計1,110万部を寄贈した食農教材本



木育授業の風景

「JAバンク 農とあゆむプロジェクト」

JAバンクは、“農業と地域をつなぐ”取組みとして、国産農産物の消費拡大につながる金融商品（「農業応援金融商品」）の取扱いを拡大します。

この取組みを、全国統一運動「JAバンク 農とあゆむプロジェクト」として展開していきます。



- ◆ 農業にもっと寄り添いたい、ともにあゆんでいきたい、そんな気持ちを込めたネーミング・ロゴです。



商品チラシへの表示(例)